

サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く「2009 年冬のボーナスと家計の実態調査」

ボーナス「減った」53.8%。66.4%の主婦が「ボーナスをあてにしない」宣言！

平均手取金額は 62.1 万円(昨冬比 11.9%減 / 調査開始以来最低)

主婦の“へそくり”も減少！平均金額は 374.3 万円(昨冬比 18.9%減)

夫の小遣い“なし”約 5 割、主婦は「もやし」「鍋」料理で不況に対抗！

臨時ボーナスあげたい人 No.1 は 2 年連続「石川遼」！

損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社(社長:澁谷 達雄)は、全国の 20~50 代のサラリーマン世帯の主婦 500 名(各年代毎 125 名 平均年齢 39.7 歳)を対象に、「2009 年冬のボーナスと家計の実態」をテーマとしたアンケートを、2009 年 12 月 10 日(木)~14 日(月)に実施いたしました。

今回の調査では、長引く不況の影響で半数以上の方がボーナス減となり、平均手取額は 62.1 万円と調査開始以来最低の結果となりました。一方で、6 割を超える主婦が“ボーナスをあてにしない”家計対策を考えているという回答がみられ、ボーナス依存型の家計体質から脱却しようとする兆しが見られます。さらに、ボーナスの使い道の“事業仕分け”を聞いたところ、“予算の見直し、または縮減”で、「衣料品・服飾費」「プチ贅沢」が上位を占める一方、“予算通り”では「子供の教育関連」「夫の小遣い」が上位に入り、家族を気遣う妻の愛情が垣間見られました。

また、「夫に内緒の資産(へそくり)」に関しては、例年通り 4 割強の主婦が有していますが、平均へそくり額は昨冬の 461.3 万円から 374.3 万円と大幅に減少し、家計への“へそくり補填”が推測される結果となりました。

6 割を超える主婦が、現在の家計を「苦しい」と感じながらも、今後の家計の見通しを「厳しい」と考える人の割合が昨冬より大幅に減少しており、“2010 年景気回復への期待”がうかがえます。

第 19 回損保ジャパン DIY 生命アンケート「2009 年冬のボーナスと家計の実態調査」の結果概要は、以下となります。

(「2009 年冬のボーナスと家計の実態調査」の主な結果)

< 2009 冬のボーナス >

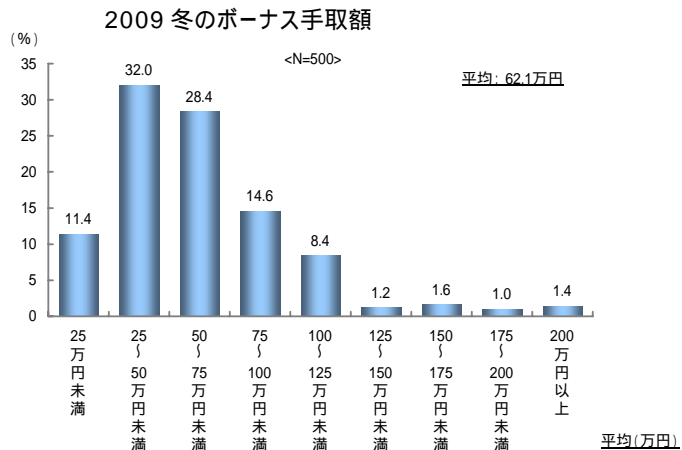
- ◆ 冬のボーナス「減った」は 53.8%、「増えた」は 20.4%。平均手取額は 62.1 万円(昨冬平均比 8.4 万円減)。
- ◆ ボーナスの受給額について、64.8%の主婦が「経営状態や景気動向を考えれば納得せざるを得ない」と回答。
- ◆ ボーナスの使い道は、「預貯金」(68.0%)が突出。総額の 38%(平均手取額換算で 23.6 万円)が預貯金へ。
- ◆ ボーナスから夫に渡した小遣いの平均額は 7.3 万円。「渡さない」は約 5 割で、冬の調査開始以来最高。
- ◆ この冬、臨時ボーナスをあげたい人は、「石川遼」、「嵐」、「蓮舫(参議院議員)」、「自分」。
- ◆ 主婦からみた冬のボーナス川柳は受給額によって様々。(例:「ボーナスが、出たが最初に、まず仕分け」)

< 家計の現状 / わが家の生活防衛策 >

- ◆ 家計が「苦しい」63.2%も、今後の家計の見通し「厳しくなっていく」は昨冬 59.8%から 46.0%に大幅減少。
- ◆ ボーナスをあてにしない家計対策を「考えている」が 66.4%！ボーナス依存脱却意識が鮮明に。
- ◆ ボーナス使い道「事業仕分け」の聖域は、「子供の教育関連」で、7 割強が「予算通り」。
- ◆ 今後支出を抑えたいのは、「外食費」がトップ。不況対策料理に、「もやし」「鍋料理」「豆腐」を活用！
- ◆ 夫に内緒の資産(へそくり)を持っている主婦は 46.8%。所持平均は 374.3 万円。最高額は、1 億円。
- ◆ 2009 年を振り返ってご主人にかけたい言葉トップは、「お疲れさま・ご苦労さま」。

(2009年冬のボーナス)

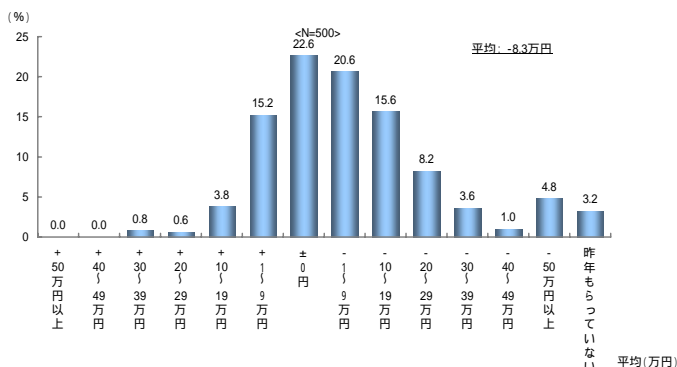
“減った”(53.8%)が過半数を占め、調査開始以来最低。
 ボーナス平均手取額は、62.1万円。昨冬平均70.5万円より8.4万円減少。



妻の年代	20代 <n=125>	30代 <n=125>	40代 <n=125>	50代 <n=125>	平均(万円)					
20代 <n=125>	20.0	52.0	21.6	3.2	2.4	-	-	-	0.8	43.2
30代 <n=125>	10.4	38.4	33.6	8.0	7.2	-	0.8	0.8	0.8	59.0
40代 <n=125>	8.0	21.6	31.2	20.0	11.2	4.0	3.2	0.8	-	68.0
50代 <n=125>	7.2	16.0	27.2	27.2	12.8	0.8	2.4	2.4	4.0	78.0

リーマン・ショック以降の不況が長引く中、サラリーマン世帯の主婦の夫が受け取った冬のボーナス手取額を聞きました。平均手取額は62.1万円とボーナス調査開始以来、最低の手取額となりました。支給額は、「25～50万円未満」(32.0%)が最も多く、次いで「50～75万円未満」(28.4%)が続いています。昨冬は、「50～75万円未満」(28.8%)が最も多かったことから、全体的に支給額が減少傾向にあるようです。

昨冬と比較したボーナス増減額



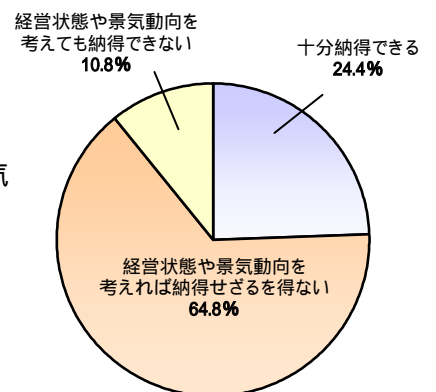
昨冬のボーナスに対する増減は、“減った”(53.8%)が調査開始以来最も多い割合を記録しました。その変動幅も“減った”方が大きく、中には「-50万円以上」(4.8%)という人も見られるなど、景気の厳しさがうかがえます。増減額の平均は「-8.3万円」となっています。

妻の年代	20代 <n=125>	30代 <n=125>	40代 <n=125>	50代 <n=125>	平均(万円)											
20代 <n=125>	-	-	0.8	0.8	4.8	20.0	20.8	24.8	14.4	7.2	1.6	-	0.8	4.0	-4.2	
30代 <n=125>	-	-	1.6	-	3.2	22.4	22.4	23.2	10.4	8.0	1.6	0.8	3.2	3.2	-5.4	
40代 <n=125>	-	-	-	1.6	6.4	11.2	24.8	18.4	16.8	8.8	3.2	-	5.6	3.2	-8.2	
50代 <n=125>	-	-	0.8	-	0.8	7.2	22.4	16.0	20.8	8.8	8.0	3.2	9.6	2.4	-15.2	
夫の役職	役職なし <n=191>	-	-	1.0	1.0	4.7	17.3	20.4	24.1	17.3	6.3	1.6	0.5	2.1	3.7	-5.3
係長・主任クラス <n=158>	-	-	0.6	0.6	3.8	13.9	22.2	25.9	13.9	9.5	3.8	-	1.9	3.8	-6.7	
課長クラス以上 <n=151>	-	-	0.7	-	2.6	13.9	25.8	10.6	15.2	9.3	6.0	2.6	11.3	2.0	-13.5	

妻の年代別に増減の平均値を見ると、上の年代ほど減少額が大きくなり、(50代) (-15.2万円)と(20代) (-4.2万円)とでは落ち込み幅に4倍近くの差が見られます。

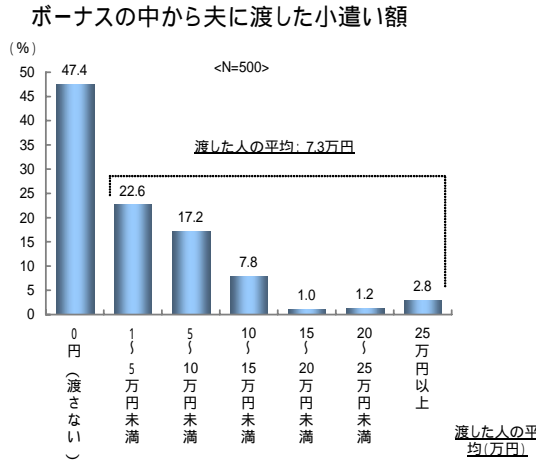
昨冬の調査結果と比べると、“増えた”(29.0% 20.4%)、“減った”(34.6% 53.8%)、増減の平均(-1.7万円 -8.3万円)と、支給状況はかなり悪化しています。

今回のボーナスについて、家計を預かる主婦はどのように感じているのか聞いたところ、ボーナス手取額が減少した家庭が多いにもかかわらず、“経営状態や景気動向を考えれば納得せざるを得ない”が6割強を占める結果となりました。個人の働きだけではどうにもならない現実を受け、『ボーナスが支給されるだけありがたい』と感じている主婦も多いのではないのでしょうか。



（ボーナスの中から夫に渡した小遣いの平均額）

「0円（渡さない）」(47.4%)が約半数を占める。渡した（渡そうと思っている）人では、「1～5万円未満」（22.6%）が最も多く、渡した人の平均金額は7.3万円。



夫の小遣い額の推移 (冬)

年	渡した人の平均 (万円)	小遣いなしの割合 (%)
2006	8.8	27.6
2007	7.4	19
2008	11.1	37.4
2009	7.3	47.4

妻の年代	0円 (渡さない)	1～5万円未満	5～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～25万円未満	25万円以上	渡した人の平均 (万円)
20代 <n=125>	47.2	31.2	11.2	6.4	0.8	-	3.2	6.4
30代 <n=125>	37.6	33.6	16.8	4.8	1.6	3.2	2.4	6.5
40代 <n=125>	56.8	13.6	16.8	9.6	-	1.6	1.6	7.2
50代 <n=125>	48.0	12.0	24.0	10.4	1.6	-	4.0	9.4

今回のボーナスの中から、夫に小遣いとして渡した、あるいは渡そうと思っている金額を聞いたところ、約半数が「0円（渡さない）」(47.4%)という結果となりました。とくに、〈40代〉は、出費がかさむのか「0円（渡さない）」(56.8%)が最も高くなっています。

過去の冬の調査と比較すると、小遣い“なし”はここ数年増加の傾向にあるようで、この冬ボーナスの中から少しでも小遣いを支給されたご主人は、この結果を見ると“めぐまれている”と前向きにとらえていいようです。

（臨時ボーナスをあげたい人）

総合1位には、2年連続「石川遼」がランクイン！スポーツ界のトップは「石川遼」(92件)。芸能界のトップは「嵐」(46件)。その他のトップは「蓮舂」と「自分」(各9件)。

2009年後半臨時ボーナスをあげたいと思う人

スポーツ界			芸能界			その他		
順位	名前	件数	順位	人名	件数	順位	名前	件数
1	石川遼	92	1	嵐	46	1	蓮舂 (参議院議員)	9
2	イチロー	61	2	加藤清史郎	25	"	自分	9
3	松井秀喜	13	3	イモトアヤコ	11	3	夫	4
4	赤星憲広	11	4	オードリー	6	"	橋下徹 (大阪府知事)	4
5	浅田真央	7	"	EXILE	6	5	鳩山由紀夫 (総理大臣)	3
"	野村克也	7	6	ベッキー	4	6	実母	2
7	内藤大助	6	"	森光子	4	"	長妻昭 (厚生労働大臣)	2
8	原辰徳	5	"	水嶋ヒロ	4	"	辻井伸行 (ピアニスト)	2
"	安藤美姫	5	9	東方神起	3	"	福田衣里子 (衆議院議員)	2
10	ダルビッシュ有	3						
"	中山雅史	3						
"	田中将大	3						
"	バレーボール男子日本代表	3						

2009年後半に主婦が臨時ボーナスをあげたいと思う人を、〈スポーツ界〉〈芸能界〉〈その他〉の分野に分けてあげてもらいました。冬調査において2年連続総合トップとなる「石川遼」(プロゴルファー)は、主婦層の支持がうかがえる結果となり、フレッシュな人に“希望を託したい”ということがうかがえる結果となりました。

(今年のボーナスを川柳であらわすと)

「ボーナスが、出たが最初に、まず仕分け」、「やっぱりか、ガクッと下がり、肩下がる」、「それなりに、景気を反映、でも満足」など、受給額によって主婦の思いもさまざま。

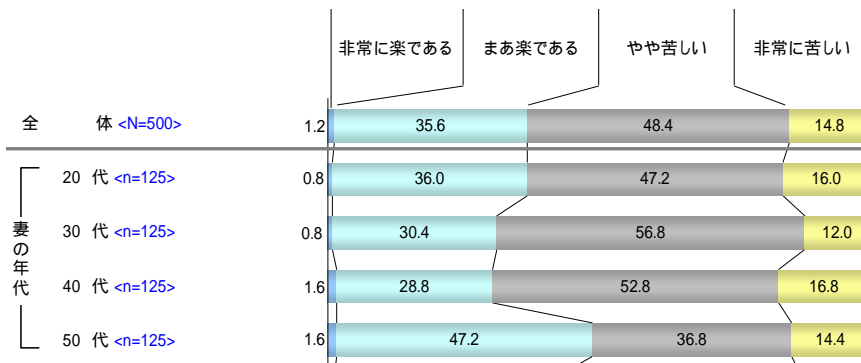
冬のボーナスを受け取った時の気持ちを題材に、家計を預かる主婦に「川柳」を詠んでもらいました。(下図) 受け取ったボーナス額によって、込められた思いは様々なようです。

<p>【待望のボーナスも焼け石に水？家計のやりくり川柳】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ボーナスが、出たが最初に、まず仕分け • ありがたい、スズメの涙、すぐかわく • 去年より、一割減ね、おこづかい <p>【少なくとももらえて嬉しい満足川柳】</p> <ul style="list-style-type: none"> • このご時世、頂ける事に、感謝する • やっと出た、少ないけれども、大助かり • それなりに、景気を反映、でも満足 <p>【「出だけマシ」と言い聞かせる哀愁川柳】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 仕方ない、国も家計も、節約志向 • ボーナス日、出ただけでしたが、でも赤字 	<p>【大幅ダウンに“ボーナス・ショック”？川柳】</p> <ul style="list-style-type: none"> • やっぱりか、ガクッと下がり、肩下がる • 世の中と、うちのボーナス、デフレ中 • 50代、30代より、手取り減り <p>【次のボーナスへの“不安”“期待”“あきらめ”川柳】</p> <ul style="list-style-type: none"> • いつまでも、あると思うな、ボーナス日 • 半年後、景気上向き、期待する • はじめから、無いと思えば、いいんじゃない <p>【しっかりもらえた人のホクホク川柳】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 嬉しいな 増えた分は、私のへそくり <p>【喜び、不安、皮肉が入り交じる微妙な心理川柳】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 嬉し悲しや、出ていく先は、娘孫
---	--

(家計についての現状認識と今後の家計見通し)

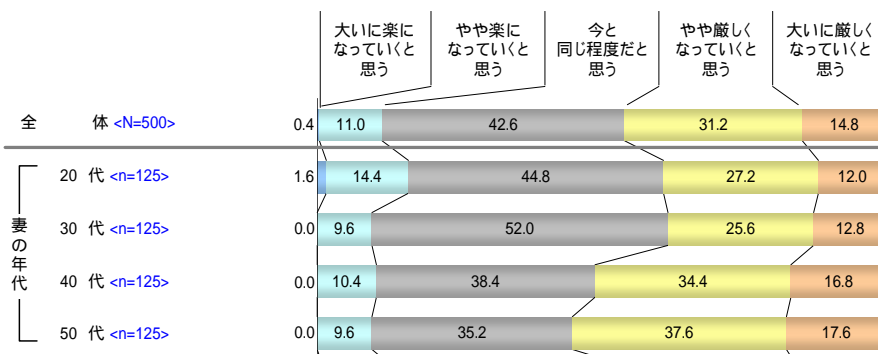
“苦しい”(63.2%)が6割強。今後は“厳しくなっていく”(46.0%)が半数近くだが、昨冬より10ポイント以上減少。
 “苦しい”は、「やや苦しい」「非常に苦しい」の合計、“楽である”は、「まあ楽である」「非常に楽である」の合計を表します。

家計の現状



現状における家計の認識を聞いたところ、“苦しい”が昨冬より若干増加し(61.8% 63.2%)、じわじわ生活レベルでの“厳しさ”の実感が増していることがうかがえます。年代別で、家計が“苦しい”が顕著なのが、(30代)(68.8%)、(40代)(69.6%)で、7割近くの主婦が“苦しい”と感じる結果がでています。

今後の家計の見通し

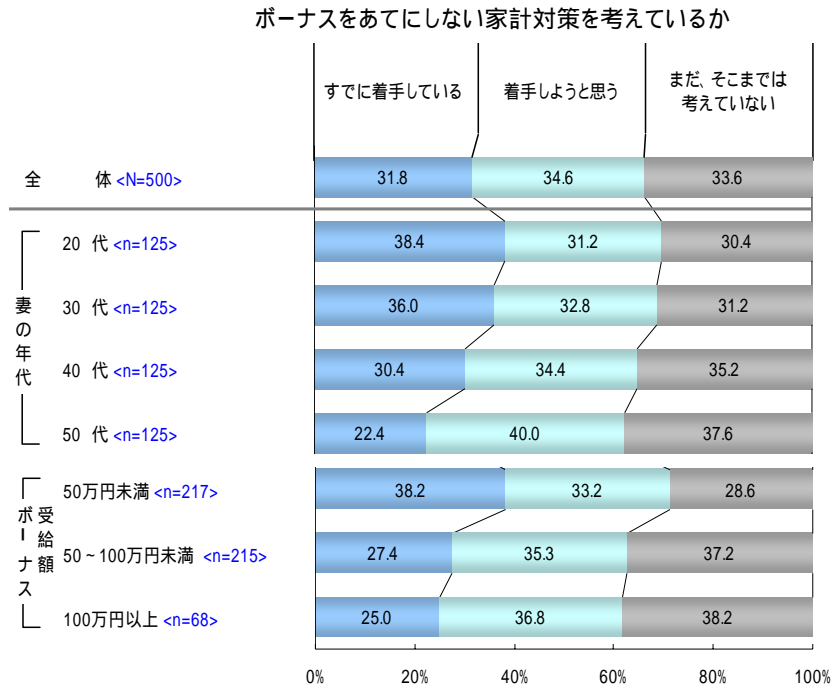


次に、今後の家計の見通しを聞いたところ、“厳しくなっていく”(46.0%)が半数近くを占め、依然として主婦の家計に対する見通しはシビアです。その一方で、昨冬と比較し、“厳しくなっていく”(59.8% 46.0%)が10ポイント以上減少し、「今と同じ程度だと思う」(31.0% 42.6%)が増えました。

不況の長期化により、『もうこれ以上は悪くならないだろう』と思う方が増えているのでしょうか。

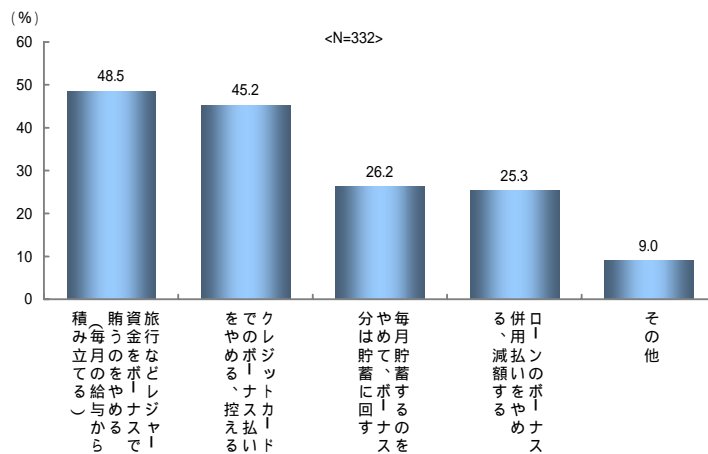
(ボーナスをあてにしない家計対策を考えているか)

「すでに着手している」(31.8%)が3割強。「着手しようと思う」(34.6%)も含めると約3分の2(66.4%)がボーナス依存からの脱却意識が強い。



景気の先行きが不透明な状態が続いている中、今後ボーナス依存から脱却した家計対策について主婦はどのように考え、行動しているのか聞いたところ、66.4%の主婦がボーナス依存からの脱却意識があることがわかりました。中でも、年代が低い、もしくは受給額が低いほど、ボーナスをあてにしない家計対策に“すでに着手している”主婦が多く、今後の経済を見据えた家計の施策を実施しているようです。

実際に着手している、あるいは着手しようと思っている内容(複数回答)



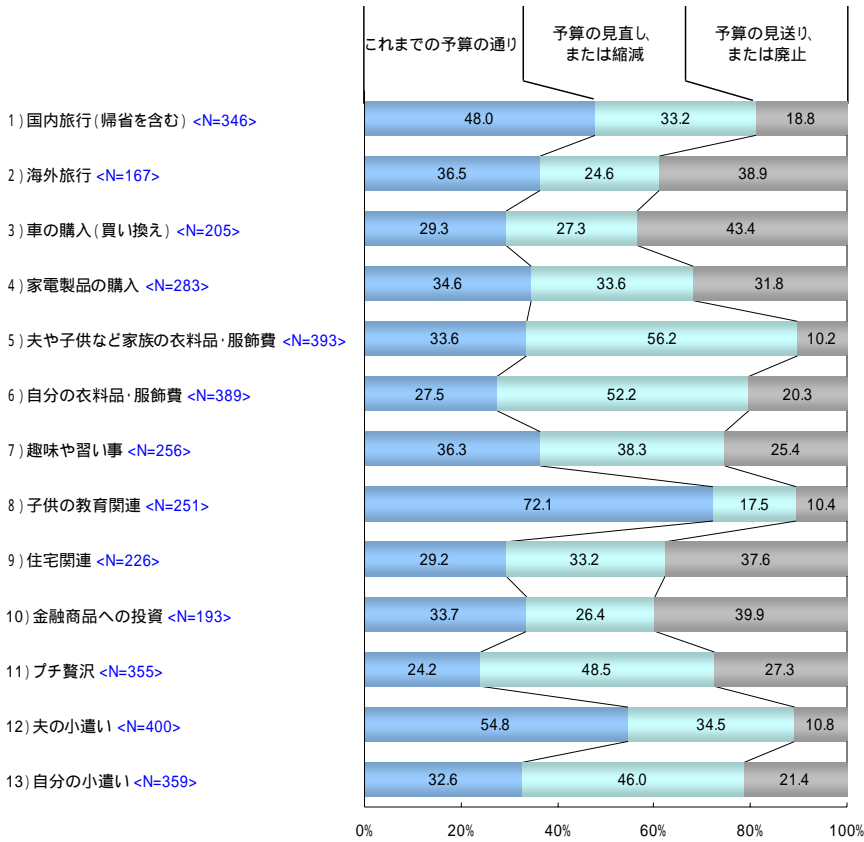
さらに、ボーナスをあてにしない家計対策について、「すでに着手している」「着手しようと思う」と答えた人にどのような対策を考えているかを聞いたところ、「旅行などレジャー資金をボーナスで賄うのをやめる(毎月の給与から積み立てる)」(48.5%)が最も多く、僅差で「クレジットカードでのボーナス払いをやめる、控える」(45.2%)が続いています。以下、「毎月貯蓄するのをやめて、ボーナス分は貯蓄に回す」(26.2%)「ローンのボーナス併用払いをやめる、減額する」(25.3%)となっています。

ボーナス受給額が大幅に減少する中、ボーナス依存型家計体質から卒業し、月々の給与の中でやりくりしようとする家庭が増えているようです。

(わが家の家計“事業仕分け”)

(これまでの予算通り)は、「子供の教育関連」(72.1%)、「夫の小遣い」(54.8%)が多く、家族思いの妻・母親像がうかがえる。

冬のボーナスの使い道“わが家の事業仕分け”【仕分け結果】



新政権がスタートしてまもなく、歳出抑制策として世間の注目を集めた“事業仕分け”。今回の調査では主婦に冬のボーナスにおける“仕分け人”になってもらい、厳しくジャッジをしてもらいました。

(予算の見直し、または縮減)は、家族や自身の「衣料品・服飾費」が半数以上を占め、一番の見直し対象にあげられています。

(予算の見送り、または廃止)には、「車の購入」や「海外旅行」など高額な支出が敬遠傾向になるようです。ボーナスの使い道にシビアな決断を下す一方、**(これまでの予算通り)**の割合は、「子供の教育関連」(72.1%)が最も高く、次いで「夫の小遣い」(54.8%)が続いています。ちなみに、「自分の小遣い」は約7割の主婦が(見直し・縮減/見送り・廃

止)を考えていることから、自分の小遣いを削ってでも子供や夫のための予算に振り分けようとする、けなげな妻の姿勢がうかがえます。

(家計の中で今後特に「支出」を抑えたいもの)

外食費(外食・出前など)がトップ。具体的な工夫の仕方は、「外食を抑え家で食べる」、「お弁当を作る」など。2010年は、“支出の見直し強化”がキーワード。

家計の中で今後特に「支出」を抑えたいもの/具体的な工夫

順位	項目	(%)	支出を抑えるための具体的な工夫
1	外食費(外食・出前など)	25.2	外食を控えて家で食べる/お弁当を作る/外食を控える
2	電気・ガス・水道料金	17.2	節約をする・ムダに使わない/電気をこまめに消す/エコを考えた生活をする
3	食費(食料品・調味料など家での食費)	15.8	安い食材や特売品を購入する/買い物の回数を減らす/献立の見直し
4	衣料品・服飾費	9.2	持っている服で我慢する・買わない/買い物に出かない
5	娯楽費(旅行・映画・観劇など)	7.2	外出を控える/安く遊ぶ工夫をする
6	生命保険	5.8	契約内容の見直し/解約
7	小遣い	3.8	節約する/小遣いを減らす/飲み会を減らす
8	通信費(固定電話・携帯電話等)	3.6	携帯電話の料金プランを見直す
9	家庭用耐久財(車・家電製品・家具など)	2.8	大切に使う/購入しない
10	保健・医療費	2.4	健康に気をつける

家計の中で今後とりわけ「支出」を抑えたいと考えているものを聞いたところ、トップ3は、「外食費」「電気・ガス・水道料金」「食費」となりました。

最も多い「外食費」の節約では、「外食を控えて家で食べる」、「お弁当を作る」など、“自炊”傾向が強まっていることがわかります。

また、固定費のプラン見直しを検討している主婦も多く、2010年は“支出の見直し強化”を図ろうとしているようです。

(生活防衛のために取り入れている、または取り入れたいと思うメニューや食材)

「もやしの活用」(72件)、「鍋料理」(51件)、「豆腐の活用」(40件)がベスト3。
ヘルシーな食材や料理を活用した“うちごはん”で不況に対抗！

生活防衛のためのメニューや食材

順位	メニューや食材	件数
1	もやしを活用する	72
2	鍋料理	51
3	豆腐を活用する	40
4	野菜中心のメニュー	34
5	安い食材を使う・高級食材は使わない	32
6	鶏肉を使う	31
7	特売品や見切り品などを購入する	27
8	食材を使い切る	20
9	旬の野菜を使う	19
10	自家製や実家の野菜を使う	16
11	なるべく手作りする	12

生活防衛のために取り入れている、または取り入れたいと思うメニューや食材を自由にあげてもらった結果を見ると、最も多かったのが「もやしの活用」で72件でした。以下、「鍋料理」(51件)、「豆腐の活用」(40件)、「野菜中心のメニュー」(34件)、「安い食材を使い、高級食材は使わない」(32件)などとなっており、安い野菜や食材を使った料理メニュー、それらを使った鍋料理などが上位にあげられています。

また、肉類は「鶏肉を使う」(31件)、購入は「特売品や見切り品の購入」(27件)など、購入する品目や方法を工夫して節約している家庭も多いようです。中には、「自家製や実家の野菜を使う」(16件)や、「なるべく手作りする」(12件)といった回答も見られ、総菜購入など“中食(なかしょく)”を控え、手作りの“うちごはん”にして、食費を抑える工夫をしているようです。

(“リーマン・ショック”以降、お金の使い方やお金に対する考え方について学んだこと)

「無駄遣いや衝動買いが減った」(49件)がトップ。不況で、主婦のマネーリテラシーにも変化。

“リーマン・ショック”以降、お金の使い方やお金に対する考え方について学んだこと

順位	学んだこと、成長したと思うこと	件数
1	無駄遣いや衝動買いが減った	49
2	節約するようになった・安いものを探すようになった	27
3	貯金を心がけるようになった	22
4	投資のリスクを再認識した・投資に対して慎重になった	18
5	食費や外食費を減らすようになった	15
6	貯蓄や保険、投資の内容を見直した	14
7	景気は変動する、何が起るかわからないということを学んだ	10
8	家計簿をつけるようになった	9
9	お金の大切さを再認識した	8
	お金の使い方を見直した・お金を使わなくなった	8

“リーマン・ショック”から1年あまりが経過し、この間にお金の使い方やお金に対する考え方について、学んだことや成長したと思うことを聞いてみました。

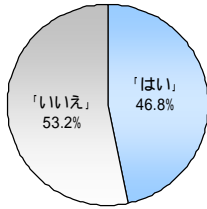
回答を見ると、「無駄遣いや衝動買いが減った」が49件で最も多く、次いで多いのが「節約するようになった・安いものを探すようになった」(27件)や、以前と比べ購買の際には“必要なものをなるべく安く買う”など、収入面の厳しさを受けて、慎重なかしこい消費者になろうとしていることがうかがえます。

リーマン・ショック以降、家計に対する節約志向の高まりや、節約メニュー活用などから、家計消費は圧縮傾向にあるようです。

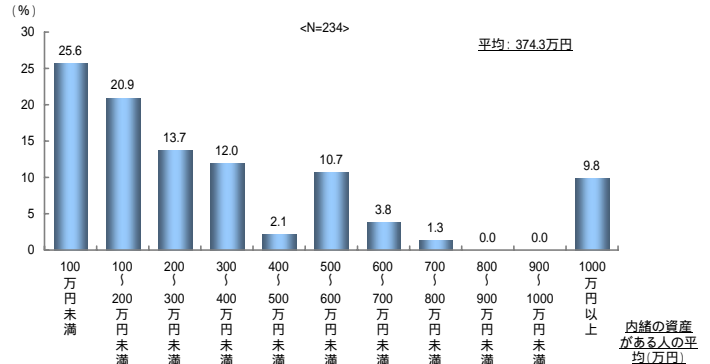
(夫に内緒の資産)

約半数(46.8%)が『夫に内緒の資産(へそくり)』を所有。平均は374.3万円、最高金額は1億円。
 へそくりの目的は、「何かあったときの備えとして」(71件)がトップ。中には「熟年離婚の備え」も。
 2009年からの増減は、「減った」(40.6%)で減額の原因は、“臨時出費”や“不況の穴埋め”が多く、内緒の資産にも不況の影響。

夫に内緒の資産(へそくり)を持っているか



へそくり(夫に内緒の資産)をいくら持っているか



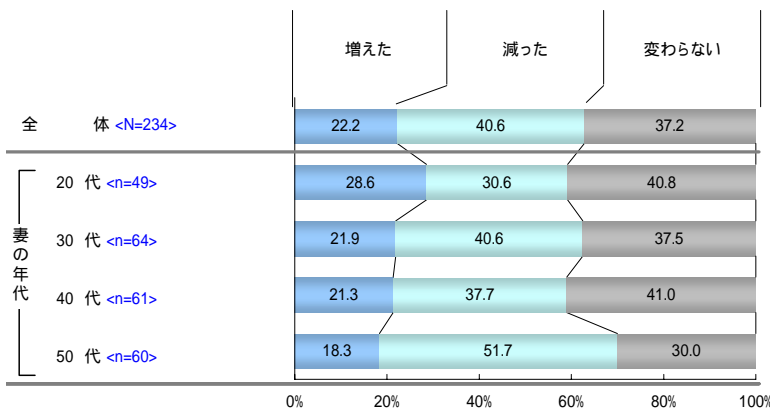
へそくりを持つ理由

順位	理由	件数
1	何かあった時の備え	71
2	老後の備え	52
3	趣味や旅行など、自分のために使う	38
4	子供のため	14
5	家族の病気の備えて	13
6	熟年離婚の備え	10

妻の年代	20代 <n=49>	30代 <n=64>	40代 <n=61>	50代 <n=60>	200万円未満	200万円～299万円未満	300万円～399万円未満	400万円～499万円未満	500万円～599万円未満	600万円～699万円未満	700万円～799万円未満	800万円～899万円未満	900万円～999万円未満	1000万円以上	内緒の資産がある人の平均(万円)
妻の年代	36.7	40.8	10.2	6.1	-	6.1	-	-	-	-	-	-	-	-	135.1
	31.3	15.6	14.1	14.1	-	10.9	7.8	-	-	-	-	-	-	6.3	277.7
	23.0	16.4	16.4	13.1	3.3	11.5	3.3	3.3	-	-	-	-	-	9.8	335.5
	13.3	15.0	13.3	13.3	5.0	13.3	3.3	1.7	-	-	-	-	-	21.7	712.1
妻職の業	27.3	21.6	14.8	10.2	2.3	8.0	3.4	1.1	-	-	-	-	-	11.4	319.6
	24.7	20.5	13.0	13.0	2.1	12.3	4.1	1.4	-	-	-	-	-	8.9	407.2

夫に内緒の資産の有無の割合を見ると「はい」(46.8%)が4割強となり、昨冬の所有率である42.0%より若干高くなっています。その一方で、へそくりを所有している人の平均金額は、374.3万円となり、昨冬平均の461.3万円から約18.9%もの減少となりました。

2009年に入ってからへのそくり増減



2009年に入ってからへのそくり増減を聞いたところ、「減った」(40.6%)が約4割を占めています。

妻の年代別に見ると、特に(50代)の「減った」が(51.7%)で最も高くなっています。

「減った」最も大きな理由として、「臨時出費があった」(37.9%)や、「不況のため赤字の穴埋めに使った」(24.2%)、「不況で収入が減りへそくりできなくなった」(17.9%)などがあげられています。

厳しい家計状況が続く中、夏以降の大きな買い物で、内緒の資産からの“出動”があったのかもしれませんが。

DIY生命の「4つの約束」

わたしたち損保ジャパンDIY生命は1999年の創業以来、「1年組み立て保険」という独自の商品販売を通じて、「自分の保険は、自分でつくる」、「生命保険は、ライフステージの変化に合わせて見直す」、「生命保険で、貯蓄はしない」というメッセージを発信し続けています。これらは、お客さまに「真にムダのない、合理的な保険をご提供する」というメッセージであり、次に掲げる当社の「4つの約束」に基づいています。

お客さまにぴったりあった商品の提供
 迅速なサービスの提供

お客さま自らの判断でご加入いただくこと
 お客さまとの継続的な関係の構築

わたしたちは、損害保険ジャングループの「ダイレクト販売専門生命保険会社」として、また「常に先進的な取り組みを目指す会社」として、これからも「4つの約束」のもと、質の高いサービスと安心を提供してまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社
 広報室：杉山実 TEL:03-5437-9026